

今日のトピック 株価と資金フローから見るインフラ株式投資 景気後退への備えをインフラ株式投資で行う発想

ポイント1 インフラ株式は世界株式に比べて安定的に推移

- 世界株式は21年末以降、世界的な物価高騰と米国を中心とした利上げの加速を背景に大きく下落し、足元でも軟調に推移しています。こうした中で、インフラ株式*は21年6月以降、多少の上下はあるものの、おおむね安定的に推移していると言えます。

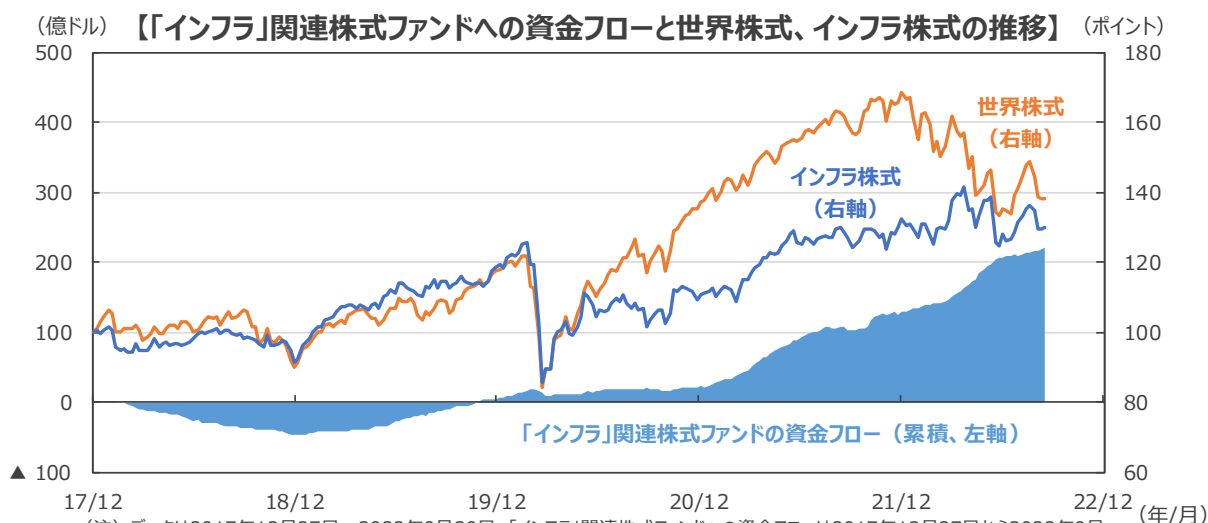
*インフラ株式：道路、鉄道、港湾、空港、水道、ダムなど生活や産業の基盤（インフラストラクチャー）を担う企業の株式。

ポイント2 「インフラ」関連株式ファンドへ安定した資金流入

- インフラ株式の比較的安定した株価推移の背景を探るため、株式ファンドの資金フローを確認しました。それによると、「インフラ」関連株式ファンドに安定した資金流入が続いていることがわかりました。これは、インフラ株式が持つインフレ耐性の高さ故でしょうか。それとも景気後退に対する備えでしょうか。

今後の展開 景気後退局面入りに備える

- 「インフラ」関連株式ファンドと同様、インフレ耐性が強いと言われる「エネルギー」関連株式ファンドは、資金流入が続いている訳ではありません。一方、景気後退局面に強い「公益」関連株式ファンドへの資金流入は継続しています。こうした資金フローから見ると、投資家は今後の景気後退局面入りに備え、業績とキャッシュフローが安定していると期待されるセクターに資金を振り向けている模様です。インフラ株式の安定した株価推移と関連ファンドへの資金流入は、景気後退に対する備えと言えます。



（注）データは2017年12月27日～2022年9月20日。「インフラ」関連株式ファンドへの資金フローは2017年12月27日から2022年9月14日までの累積。世界株式、インフラ株式は2017年12月27日＝100として指数化。世界株式：MSCIワールド（配当込み）、インフラ株式：ダウジョーンズ・ブルックフィールド・グローバル・インフラストラクチャー指数（配当込み）。すべて米ドルベース。

（出所）EPFR グローバル、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2022年9月 9日 主要な資産の利回り比較（2022年8月）

2022年8月18日 資産形成において、米景気後退をどう活かすか

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。